

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び責任を自覚し、次代の日本をリードする人材を育成し得る高等学校

強き信念(まこと) と 高き理想(のぞみ) を持つ生徒が育つ高等学校

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校
2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとおし、豊かな人間性を涵養する学校
3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

2 中期的目標

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校

- (1) 新たな大学入試制度に対応し、新学習指導要領を踏まえた教育課程を円滑に実施する。
 - ア 主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。
 - イ 課題研究活動の内容を深化させ、探究的な学びの充実をはかる。
- (2) グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)、スーパーサイエンス・ハイスクール(SSH)としての教育内容を充実させる。
- (3) 進路指導年間計画を充実させるとともにキャリア教育の充実を図る。
 - ア 進路検討会議の継続をはじめとした取組みの充実と一層の進路指導の情報提供に努める。
 - イ 生徒の進路実現を支援し、国公立大学 70%(現浪)を実現する。(R1. 65% R2. 63% R3.63%)
- (4) 英語コミュニケーション能力の育成
 - ア 4技能(聞く、話す、読む、書く)統合型授業の充実を進め、CEFRに対応した校内スピーキングテストを充実し、実践的英語力の向上を図る。
- (5) ICT 化対応の教育の推進と効果的な 65 分授業を実施する。
 - ア GIGA スクールの実施、生徒1人1台端末に合わせた、授業、その他の学校教育活動の ICT 化を進める。
 - イ 教員研修の充実等により密度の濃い 65 分授業を行う。

2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとおし、豊かな人間性を涵養する学校

- (1) 学習と学校行事・自治会活動・部活動を両立させうる生徒を育成する。
 - ア 1年次部活動加入率 90%以上を維持する。(R1. 94% R2. 90% R3. 92%)
 - イ 取組み内容の精選を行い、自主的活動全般のレベルを上げ、意欲につながる充実感を持たせる。
- (2) あらゆる場で、人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。
- (3) 図書館の活用促進・読書指導の充実を図る。
- (4) 通級指導を全校体制で取り組み、学校教育全体のユニバーサルデザイン化を進める。

3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

- (1) ボランティア体験活動や授業や行事などを通じて、社会貢献の意識を高める。
- (2) コロナ禍の状況の中でも、オンラインや国内留学生との交流などにより、交流国際感覚の向上に努める。
- (3) 周辺地域、学校の教育活動に関連した関係諸機関との連携を充実させていく。

4. 働き方改革の推進

分掌間の調整を進め、校務処理等の仕組みを見直し、効率化を進め業務負担軽減をはかる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年 12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒アンケートでは、「授業」「学校行事」「進路」「部活動」「相談・支援」といった項目の肯定的評価が90%を超えており、学校生活満足度も93.5%と高い。また、「自分の考えをまとめたり発表したりする力がついた」の質問が83.8%(昨年度比+5.1)した。サイエンス探究などの課題研究の取り組みはもちろん、「理想(のぞみ)」の授業において、SSコースLSコース合同での発表会をするなど発表機会の充実が要因と考えられる。</p> <p>保護者アンケートでは、教育活動の項目の評価もそのほとんどが90%を超えている。昨年度低下したホームページに関する項目の肯定的割合も82.9%(+7.1)であった。行事や部活動の公式戦等が行われる度に積極的な情報発信に努めた結果であると考えられる。引き続き学校での様子を知っていただくツールとして活用していきたい。</p> <p>教職員アンケートでは、「教育課題についてよく話し合っている」が84.6%(+7.2)、「他教科の教員と話し合う機会がある」が80.4%(+14.8)、「気軽に話し合えるような信頼関係が職場に存在する」が100%(+16.7)と大きく上昇した。今年度立ち上げた授業力向上プロジェクトの取り組みによるものだと考えられる。今後も本校の教育課題や日頃の悩みについて日常的に意見交換できるような取り組みを継続していきたい。</p>	<p>【第1回 令和4年10月12日 書面により実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学に関しては、そこそこの頑張りで行ける大学に進学している傾向が強く、浪人率も低いです。医学部合格者も少なく、物足りなさを感じます。より魅力的な学校となり高校受験の時の受験生の質を高めるか、3年間でより高い目標を持って頑張る生徒を育てるか、おそらく両方が必要と思います。 <p>【第2回 令和4年12月16日実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校見学会について本校生徒が案内する形式になっているのは、中学生にとって本校の雰囲気を知ってもらうのに良いし、本校生徒にとってもよい取組である。 ・授業形態について、新課程の学習指導要領を踏まえペーパーワークやディスカッションなどをどう取り入れるか、先生方が分析し共有することが肝心である。 ・授業を見学させていただいたが、講義型であっても全体的に学習に向かう姿勢がよく、集中力の高さを感じた。 <p>【第3回 令和5年2月21日実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SG (Small Group) システムの取り組みによって、「他教科の教員と話し合う機会がある」「気軽に話し合えるような信頼関係が職場に存在する」の項目の肯定的評価が上がっているのはわかったが、では実際に授業について、例えば65分授業をどう活用するかなど、授業を組み立てる力を学校としてどのようにつけていくかは引き続き検討・研究してもらいたい。 ・経年比較で上がった下がただけでなく、他と比べ、肯定的評価が低い(60%台)項目についても検討をすべき。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
<p>1 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校</p>	<p>(1) 学力の充実と進路希望の実現</p> <p>ア 学習指導方法の更なる工夫と改善</p> <p>イ 全員が課題研究に取り組むための指導体制の確立</p> <p>ウ 明確な進路目標をもたせるための指導と、進路実現を図るための指導の充実</p> <p>エ 英語4技能の身につけるための取組みの充実</p> <p>オ ICT化の活用と65分授業の効果的な実施</p>	<p>ア 授業改善</p> <p>① 日常的な授業見学や研究授業、研修の実施などにより、積極的に授業改善に取り組む</p> <p>② 学習到達度の低い生徒に対する授業の工夫や、補習・講習の充実に努める。</p> <p>③ 生徒1人1台端末に対応した効果的な指導方法を研究する。</p> <p>A. 授業改善研修の実施</p> <p>B. 定時制教員や他校教員との合同研修の実施</p> <p>イ 課題研究の指導体制</p> <p>① SSコースの研究レベルの向上</p> <p>② LSコースの指導プログラム作り</p> <p>ウ 進路指導</p> <p>① 集中セミナー、サマースクールの充実</p> <p>② SSH事業における研修やマifestaなどの実施</p> <p>③ 進路実現に向けた研修や講習の実施</p> <p>エ 英語4技能の取組み</p> <p>① 4技能を測る校内テストの充実</p> <p>② 外部検定試験受験の促進</p> <p>オ アクティブラーニング</p> <p>① 授業のICT化の促進と密度の濃い65分授業の実施</p>	<p>・授業アンケート肯定評価の向上[90.3%]</p> <p>・学校教育自己診断における以下の項目の肯定度の向上</p> <p>「興味深い授業」[91.8%]</p> <p>「到達度の低い生徒への指導」[68.9%]</p> <p>「発表する力」[77.7%]</p> <p>・授業改善研修(パッケージ研修)実施</p> <p>・合同研修の実施3回[3回]</p> <p>・自習室利用者の増加[日平均11人、延べ982人]</p> <p>・コンクール受賞数の増加[4人]</p> <p>・課題研究発表会を総計3回実施</p> <p>・学校教育自己診断</p> <p>「GLHS、SSHの取組み」肯定率の向上</p> <p>GL[生徒80.6%、教職員85.4%]</p> <p>SSH[生徒79.9%、教職員96.7%]</p> <p>・12月進路検討会議の実施</p> <p>・国公立進学率の向上[現浪63%]</p> <p>・共通テスト後の進路別講習の実施</p> <p>・授業内スピーキングテストの継続[3年間で延べ4回]</p> <p>・外部検定受験者はA2以上を維持</p> <p>・学校教育自己診断の関係項目の向上</p> <p>[生徒92.3%、教職員91.9%]</p>	<p>・授業アンケート肯定的評価は88.5%、(△)</p> <p>・学校教育自己診断の各項目については、興味深い授業92.9%、到達度の～76.5%、発表する力83.8%(◎)</p> <p>・授業相互見学は「SG(small group)システム」として、教科・学年・分掌・年齢・経験を混ぜた6～7人のグループを、10グループ作り、相互授業見学や研究授業を実施。グループごとに、アドバイザー・マネージャー・メンター・メンティーを置き、グループ全員での相互授業見学を実施(◎)、</p> <p>・定時制との合同研修2回、他校教員も交えた合同研修2回を実施。(○)</p> <p>・自習室の延長開室は、開室日を考査前に絞り、メリハリのある開室とした。延長開室の利用者、平均38人/1日。後期中間までで延べ591人。また、朝7:00～始業までの開室を試験的に導入。(○)</p> <p>・科学の甲子園7位(6人)、学生科学賞(2人)、パソコン甲子園本線出場(2人)、日本生物学オリンピック本線敢闘賞(1人)、日本情報オリンピック女子部門本戦敢闘賞(3人)、同本戦出場(1人)(◎)</p> <p>・課題研究発表会は今年度よりSS/LS合同実施とし、今まで希望者だった、見学の一年生も全員出席として実施できた。(○)</p> <p>・マifestaは、3年ぶりに計画通りの日程で、本校を会場に実施。マifesta(全国数学研究発表大会)を本校主催で、実施し、北海道から沖縄まで46校73発表、本校生を除く参加者304人の参加で実施。</p> <p>・海外研修代替としてオンラインで高度なエンパワメント修を実施し、60名の定員に120名の応募があった。</p> <p>・1年京大研修は学年閉鎖により延期ののち、2年阪大研修は予定日程で実施できた。GL生徒81.9%教職員78.44%、SSHは生徒81.5%教員92.3%となり、生徒の肯定度は上がったが、昨年向上した教職員の肯定度は下がっている。(○)</p> <p>・進路検討会議の実施(○)、1月の共通テスト後の講習を、個別試験対策を強化し実施(○)。</p> <p>・国公立大学進学者:58% (△)</p> <p>・スピーキングテストは計画通り実施。(CEFRに基づく校内テスト(CEFR-O)により計画通り実施)(○)</p> <p>・外部検定受験者数は、A2をクリアしている。(○)</p> <p>・ICTについては、学校教育自己診断肯定度は、生徒94.3%、教職員96.1%となっている(◎)</p>
	<p>2 豊かな人間性を涵養する学校</p>	<p>(2) 豊かな人間性の涵養</p> <p>ア 学校行事や自治会・部活動の取組み充実</p> <p>イ 挨拶の励行と自己管理能力の向上</p> <p>ウ 教育相談と通級指導の連携による生徒支援の充実</p> <p>エ 人権尊重の意識の向上</p> <p>オ 図書館の活用促進</p>	<p>ア 行事と自治会・部活動の充実</p> <p>① コロナ対策を行った上で行事を充実させる</p> <p>② 歓迎行事の充実等により部活動入部を促進する</p> <p>イ 挨拶の励行と自己管理能力の向上</p> <p>① 5分前集合の徹底により遅刻欠席を減少させる</p> <p>ウ 生徒支援の充実</p> <p>① 教育相談体制を充実させる</p> <p>② 通級指導教室での支援を充実させる</p> <p>エ 人権HRなどの充実</p> <p>① 仲間の思いのわかる集団作りを進める</p> <p>② いじめや人間関係トラブルへの組織的対応</p> <p>オ 図書館の活用</p> <p>① 委員会活動の活性化と利用促進</p>	<p>・学校教育自己診断の肯定度の向上</p> <p>[HR83.8%、行事89.3%、自治会91.5%]</p> <p>・学校生活満足度の向上[90.9%]</p> <p>・部活動入部率の90%以上[92%]</p> <p>・遅刻者数の減少[10%減]</p> <p>・学校教育自己診断の肯定度の向上</p> <p>[92.3%]</p> <p>・SCによる相談活動20回[20回]</p> <p>・通級指導の校内体制の充実</p> <p>・学校教育自己診断の肯定度の向上</p> <p>[人権学習94.1% いじめ対応92.4%]</p> <p>・委員会活動実績と人数の維持[36人]</p>

府立大手前高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3. 国際社会に貢献し得る人間の育成 を期す学校</p>	<p>(3) 社会貢献活動の推進</p> <p>ア 社会貢献の意識の高揚</p> <p>イ 国際感覚の向上</p> <p>ウ 地域と連携した教育活動の充実</p>	<p>ア 社会貢献活動の充実</p> <p>① ボランティア体験活動の実施</p> <p>イ 国際教育の推進</p> <p>① オンライン研修や交流の実施</p> <p>② 姉妹校や連携校との交流(国際科学会議)</p> <p>③ 国内留学生との交流などの新企画の実施</p> <p>ウ 地域との連携</p> <p>① 保育所等交流、弁護士会、税務署などの地域を舞台にした教育活動の実施</p>	<p>・地域の公園における清掃ボランティア、その他ボランティア参加人数の増加[26人]</p> <p>・オンライン研修の充実</p> <p>・企画の満足度 90%以上[100%]</p> <p>・各取組みの実施 [R3について保育所交流はできず]</p>	<p>・地域の公園の管理者が変わり、ごみ一つ落ちていない状況となっており、生徒が地域を調査した結果、清掃ボランティアを実施。初めての試験的実施のため人数を20人に絞って実施。参加した生徒が、今後定期的に実施してはなど、意見を出し合い自治会で検討している。(○)</p> <p>・海外研修は実施できず。オンサイトでエンパワメント研修を実施、参加生徒の肯定度は100%。(◎)</p> <p>・海外とつないで、数学の問題に取り組むマスキャンブを2回実施。大西洋上にいる環境調査のアメリカ籍掘削船とライブで交流実施。3月に国際科学会議を本校にてオンラインで主催し、また台湾とのオンライン交流を実施予定。(◎)</p> <p>・保育所交流はコロナ禍により未実施であるが、子育てアドバイザー協会の協力を得「親学習」を実施。弁護士会・税務署との連携活動は実施できた。中学校への説明会や出前講義実施。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4. 働き方改革</p>	<p>(4) 働き方改革の推進</p> <p>ア 校務処理の効率化</p>	<p>ア 校務処理等の効率化を進める</p>	<p>・時間外勤務の削減前年度比10%減 [前年度比19%増]</p>	<p>・前年度比15%増 (△)</p>